



ある男が 言者に し、最も のある行いについて ねました。 言者はそれが礼 であると答えて  
います。その男性は同じ を3度 り返し、 言者はそれぞれ礼 である」  
と答えたものの、4度目になると 言者はこう答えています。

「神の道におけるジハ ドである。」[1](#)

礼 の重要性は、多くの 言者の 言から て取れます。たとえば、 言者はこのように述べて  
います。

“??  
??

礼 の重要性は、人の人生の中でいかなる行いをしようとも、最も重要な面とは神との  
、すなわち信仰心（イ マ ン）、神への畏怖心（タクワ ）、 さ（イフラ ス）、そして神  
への崇 （イバ ダ）なのです。そうした神との は、礼 によって明示され、 践され、 加や  
少をします。それゆえ、 言者自身が述べたように、もしも礼 が完全かつ 切なもので  
あれば、残りの行いも完全かつ 切となり、礼 が不完全かつ不 切であれば、残りの行  
いも不完全かつ不 切となるのです。

的に、礼 が神への想念、そして赦しを い いくつかに行われたのであれば、それは礼 者  
にして え ない影 を与えるでしょう。礼 を えると、彼の心は神への想念で一杯になるは  
ずです。彼は神に する畏敬の念で たされると共に、神への希望を持つはずです。そう  
した をすると、神への 的な高い地位から神への不 という地位の下落をしたいとは思わ  
なくなります。神は礼 におけるそうした 面についてこう言及しています。

“??  
29?45?

ナドウィ は、そうした 果を次のように雄弁に っています。

その目的とは、あらゆる や 惑と 峙させ、 や逆境を り越え、自身を生身の弱さからまも  
り、 度ない欲望の 害を受けぬよう、人 の潜在意 下に精神力、信仰の光、神への意 を引  
き起こすことです[3](#)。



2

アッタバラニによって された 承。アル=アルバニはそのハディースにサヒフの格付けをしています。参照: Al-Sahih al-Jami, vol.1, p. 503.

3

ナドウィ、24。

4

礼における「クシュウ」とは、礼する者の心が礼に集中している状を示します。そうした心の状は身体にも表れる人物はやかに静止した状になります。また、もうつむきます。その人物の声もそうした心の状に影されます。（そしてクシュウとクドゥウの相点）については、次をご参照ください: Muhammad al-Shaayi, al-Furooq al-Laughawiyah wa Atharaha fi Tafseer al-Quran al-Kareem (Riyadh: Maktabah al-Ubaikaa, 1993), pp. 249-254.

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2870>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。